

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話こうしゅうでんわについて調べています。次は、高橋さんが書いてある【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが〈資料1〉です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

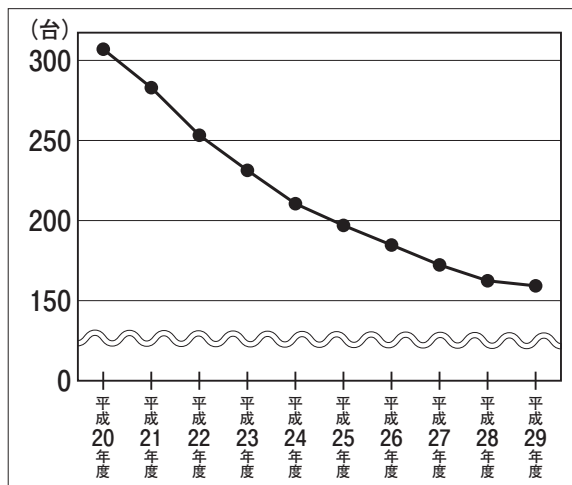
多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしょう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料2〉です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

〈資料1〉

公衆電話設置台数の移り変わり



〈資料2〉

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人



(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

・ 警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。

・ 停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができます。

・ 電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが〈資料3〉です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

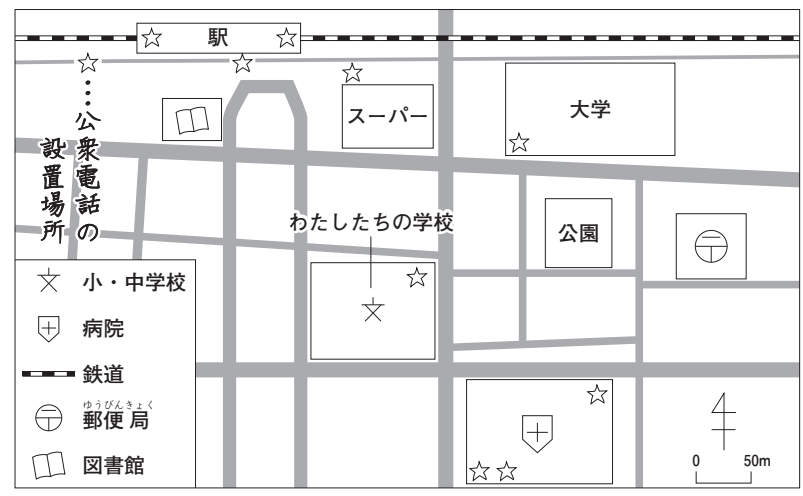
3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとすることも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にかぎらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

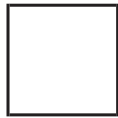
〈資料3〉 公衆電話の設置場所を示した地図



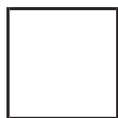
一 高橋さんは、【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料2〉……



〈資料3〉……



※解答は、解答用紙に書きましよう。

二 高橋さんは、「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の中で、公衆電話の使い方や特ちょうについて、くふうして書いています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 情報を整理して伝えるために、ことばを分けて並べて書いている。
- 2 自分の考えを強調するために、同じ言葉をくり返して書いている。
- 3 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
- 4 相手の理解を助けるために、使い方の手順に従^{したが}って書いている。

四 高橋さんは、【報告する文章】を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。【報告する文章】の——部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。

そこで、地いきの人三十人を調査の ア たいし ウ として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

ア

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に イ か ウ ぎ エ ぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について ウ かん エ しん オ をもってもらいたいと思います。

イ

(らず)

ウ

※解答は、解答用紙に書きましよう。

(2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、【報告する文章】の [] の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましよう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

[] 。そこで、 []

※解答は、解答用紙に書きましよう。